

胃がんをなおす！

日時 平成25年7月7日(日) 13:30～16:15

場所 倉吉交流プラザ 2階視聴覚ホール

13:30 **開 会**

あいさつ 鳥取県立厚生病院 院長 井藤久雄

13:35 **講 演**

座長:吹野俊介 (鳥取県立厚生病院 中央手術センター長)

1 **胃がんの診断と内視鏡治療** -胃カメラによる胃がんの治療-

演者:野口直哉 (鳥取県立厚生病院 消化器内科部長)

2 **胃がんを切除する** -腹腔鏡下胃切除vs開腹手術-

演者:西江 浩 (鳥取県立厚生病院 消化器外科部長)

(休 憩)

3 **胃がん手術を受けた患者さんの体験談** -私は胃がんが治りました-

前田久志様

(質疑応答)

16:15 **閉 会**

主催 鳥取県立厚生病院

後援

(公社)鳥取県医師会 (公社)鳥取県中部医師会 鳥取県放射線技師会

(一社)鳥取県臨床検査技師会 鳥取県細胞検査士会 (一社)鳥取県薬剤師会

(公社)鳥取県看護協会 倉吉市 三朝町 湯梨浜町 琴浦町 北栄町

(公財)鳥取県保健事業団 (株)新日本海新聞社



1 胃がんの診断と内視鏡治療 –胃カメラによる胃がんの治療–

野口直哉 (鳥取県立厚生病院 消化器内科部長)

【略 歴】

1995年 弘前大学医学部卒業、鳥取大学第二内科研修医

2000年 国立浜田病院消化器内科勤務

2001年 厚生病院内科勤務

2010年 厚生病院消化器内科部長 現在に至る

【専門分野等】

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会専門医

今日は、胃がんの内視鏡治療を中心にお話しさせていただきます。

胃がんを内視鏡で治療すると、胃の機能が温存できたり入院期間が短いなどメリットがたくさんあります。ですが、内視鏡で治療できる胃がんはごく早期のがんに限られます。早期胃がんは症状が出るのが少なく、見つけるためには定期的な内視鏡検査が重要です。

今日は、胃がんの診断や治療についてわかりやすくお話しできればと思います。

2 胃がんを切除する -腹腔鏡下胃切除術 vs 開腹手術-

西江 浩 (鳥取県立厚生病院 消化器外科部長)

【略 歴】

1987年 鳥取大学医学部卒業、鳥取大学第一外科入局
1997年 医学博士取得
2009年 鳥取県立厚生病院消化器外科医長
2012年 ~ 現職

【専門分野等】

日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医
日本臨床細胞学会専門医、消化器がん外科治療認定医、がん治療認定医

胃がんの外科治療（手術療法）における腹腔鏡下手術の普及はめざましいものがあり、当院でも2009年から内視鏡的切除の適応外の早期胃がんに積極的に導入してきました。

最近、比較的早期の進行がんにも適応を拡大してきています。今回は腹腔鏡手術と通常の開腹手術を比較し、両者の利点・欠点について概説します。

内視鏡手術や腹腔鏡手術の適応となるような早期がんの状態であれば、がんの治癒も十分に期待できます。より早期の状態で見出すためには、定期的に胃カメラによる検診を受けることがとても大切です。

3 胃がん手術を受けた患者さんの体験談 -私は胃がんが治りました-

前田久志様

私は、平成22年11月に胃がんの腹腔鏡手術を受けました。毎年、胃がん検診を受けていたおかげで、幸いにも早期がんであり、術後に抗がん剤の治療も必要ありませんでした。

術後も順調に経過して、手術前と変わらないくらいに食事を食べることができますし、同じように仕事もできています。体重が少し減った分、スマートになって痛かった膝も楽になりました。

手術当時のことを思い出しながら、手術のときの体験をお話したいと思います。

